

第一次答申のポイントは、以下の3点です。

### 1 教育施策として、はじめて「乳幼児期」からの教育支援の在り方を提示

乳幼児期から学童期にいたるまでの一貫した子供の教育支援を行うこと、そのためには、「妊娠期」、「乳幼児期」への対応を充実させる必要性や、「将来の親になる次世代の育成」という観点から、小学校段階での乳幼児との交流や中高生の「育児体験」の必要性について触れています。

### 2 乳幼児期の子供をもつ親とその子にとって、信頼できる身近な人たちとの「社会的つながり」の重要性を指摘

社会的に孤立している親への対応や地域の実情、個人の状況を踏まえたきめ細やかな支援を実現するために、地域における信頼できる身近な人たちとのつながりに注目しました。地域の中で、親たちと地域の支援者が、多様なつながり（社会的つながり）をつくることが重要としています。

地域の中で、「社会的つながり」をつくり出す役割を「地域の担い手（ファシリテーター）」が果たすことで、地域住民の力が生かされ、親自身の学びを支援します。

### 3 多様な主体が、地域で有機的連携を図るためのネットワークの構築について整理

乳幼児期からの子供の発達を、地域における「社会的つながり」づくりを通して支えるために、東京都教育委員会に求められる役割として「乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト」が提案されています。

第一次答申の全文は、東京都教育委員会のホームページ

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/pr071212.htm>を御覧ください。

なお、第7期東京都生涯学習審議会は、引き続き、今後東京都が取り組むべき社会教育施策の方向について審議を行い、平成20年中に最終的な答申をまとめる予定です。

## 第3章 すべての「子供の発達」に向けたこれからの教育支援の基本的考え方

### 1 「家庭教育」が果たす機能について

●家庭教育はすべての教育の「出発点」と言われるように、子供がこの世に生を受けてからはじめて出会うのが親であり、親を通じて様々な世界を知ることになる。

●親が行う家庭教育には、外界との媒介者である親が子供の発達を妨げることなく伸ばし、またあるときは外界との媒介者として子供の行動を調整し、結果として子供自身の発達と社会化とを促す機能がある。適切な時期に、受容し、あるいは適切な関わりを親が行うことで、子供は「一人前」に育っていくのである。

### 2 子供の発達を支援するための施策の基本的考え方

●家庭教育の機能を高めることを通じて、子供の発達を支援するための施策の基本的考え方を提示すると以下のようになる。

#### (1) 「地域」を基盤に乳幼児期からの一貫した子供の教育支援の視点

- ・乳幼児期から学童期に至るまでの一貫した子供の教育支援（特に、「妊娠期」、「乳幼児期」への対応を充実させる必要がある。）
- ・「将来の親になる次世代の育成」という観点から、小学校段階での乳幼児との交流や中高生への「育児体験」の必要性

#### (2) 親たちに「社会的つながり」を促すという視点

- ・地域における信頼できる身近な人たちとのつながりに注目する。
- ・地域の中で親同士が交流し、親たちと地域の支援者たちが多様なつながり（社会的つながり）をつくることが重要

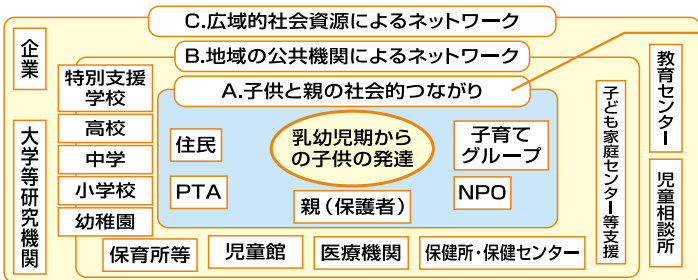
#### <社会的つながりが乳幼児をもつ親にもたらす効果>

- ①「情緒」的な安定がもたらされる。（例：声かけ、共感的助言など）
- ②問題解決に必要な「情報」がもたらされる。（例：子育てサークルの紹介、医療機関等の紹介など）
- ③必要な「手助け」が直接行われる。（例：子供を一時的に預かってくれるなど）
- ④「評価」を通じて、親が自分の子育てに自信を深める。（例：子育ての先輩から肯定的な評価を得るなど）

#### (3) 社会的つながりを促す「地域の担い手」

- ・地域の中で多様な持続的な「社会的つながり」を創り出す役割を「地域の担い手（ファシリテーター）」が果たすことで、地域住民の力が活かされ地域力が高まり、親自身の学びを支援することになる。

#### (4) 子供の発達を軸に据えた地域における多様な主体のネットワークの形成



#### <乳幼児期から子供と親の「社会的つながり」の形成>

- 乳幼児期の子供を持つ親の「社会的孤立」を防ぐ。
- 地域において、多様な人びとと出会い、親同士も交流し、「共感的関係」を築いていく。
- その「共感的関係」づくりを積極的に進めるための「地域の担い手」の存在が重要

#### 「社会的つながり」の形成

●地域における「社会的つながり」が形成されることで、地域力が高まる。「社会的つながり」づくりと行政からのアプローチの両方が相互補完的な関係を築きながら十分に機能することで、結果として行政機関や施設への活用機会が高まるという効果が期待できる。

## 第4章 乳幼児期からの「子供の発達」を地域で支えるために都教育委員会に求められる役割

### 「乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト」の提案

- (1) 乳幼児期からの子供の教育支援の必要性を全都に普及させる取組
  - ・「科学的知見」に基づく乳幼児期からの子供の発達に関する教材作成
  - ・乳幼児期からの子供の教育支援の必要性を全都にPRするための仕組みづくり（ウェブサイトの開設、広報活動の充実）※「子どもの生活習慣確立プロジェクト」の取組を参考に実施する
- (2) 乳幼児期からの子供の教育支援の取組を地域に定着させるための取組
  - ・地域における先行的取組の実施
  - ・地域で子供の育ちを支える担い手の養成

地域における多様な「社会的つながり」を目指し、①科学的知見を踏まえ、活用場面を想定した教材開発と②人材養成に取り組む